

## 新刊案内

徳田秋聲著／ハンス・ヨラン・アンカルクローナナ  
『MIKROKOSMOS』



刊行日 平成27年11月  
発行所 Vestigo Ab  
販売価格 300kr(税抜)〔SEK〕(日本円で4千円強)

秋聲最後の長編小説『縮図』が、スウェーデン語に翻訳されました。以前に日本に住んだこともある翻訳者のアンカルクローナ氏は特に川端康成の作品を愛好し、その川端が「近代日本の最高の小説」と絶賛していることから本作に出会われたそう。芸妓の世界を描く本作に表れる日本独特の文化や、秋聲の癖のある文体に四苦八苦しなから、平成18年より実に九年をかけて完成に漕ぎ着けたという力作です。

訳者は現在『仮装人物』の翻訳に新たに取掛かっているとのこと。このご活動がたいへん頼もしく、氏の翻訳作品をきっかけとして、日本国内にとどまらず世界に向けて秋聲文学の魅力が発信されることが期待されます。

大木志門著

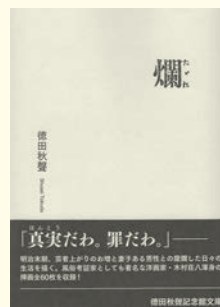
『徳田秋聲の昭和——更新される「自然主義」』



発行日 平成28年3月  
発行所 立教大学出版会(丸善雄松堂株式会社発売)  
販売価格 4320円(税込)

昨年度、当館主催のシンポジウムにもご登壇くださった大木志門氏の秋聲論が一冊の本になりました。本書では、弟子であった山田順子との恋愛事件に材をとる「順子もの」短編群(天正15年〜昭和3年からその集大成ともいえる『仮装人物』(昭和10〜13年)、そして最晩年の『縮図』(昭和16年)に至る秋聲後期の仕事を主にとりあげ、当時の文壇や社会状況などの時代背景とともに論じます。大木氏は当館前学芸員、現山梨大学准教授。資料の収集・保存・展示を主な職務とする学芸員として、長く身近に接してきた秋聲の自筆原稿など多くの実物資料に基づき考察は、これまでの秋聲像に新たな側面を与えます。今後の秋聲研究のうえで必読の一冊です。

記念館オリジナル文庫 第九弾  
徳田秋聲著／木村莊八画『爛』



発行日 平成27年12月23日  
発行所 徳田秋聲記念館  
販売価格 860円(税込)

記念館オリジナル文庫の第一弾として平成18年に初版五百部を刊行した『爛』。平成22年にはさらに二百部を増刷し、今年に入るところにはそれも完売となっていた本書ですが、開館十周年を記念して、洋画家・木村莊八の挿絵全六十点を新たに加えた新装版として復刊されました(挿絵の付された背景については館報第7号をご参照ください)。

ラフでさらりとした筆致と見せながら、その実莊八の描き出す場面は非常に緻密な構図を持っています。秋聲の筆の流れに溶け込むその一流の業を、小説とあわせてご堪能ください。

※本書は記念館のみでの販売となります(通信販売可)。